

TOMIYA UNESCO NEWS LETTER



令和5年度 3号 発行：宮城県富谷高校ユネスコ企画部 2023年12月

2 学年富谷市講演会①

9月12日に、若生裕俊富谷市長をお招きし、富谷市講演会①が行われました。若生富谷市長より「住みたくなるまち日本一の実現に向けて」のテーマでご講演をいただきました。富谷市の歴史や、新たなまちづくりの視点、富谷市の抱える課題と取り組んでいる施策を教えてくださいました。また、富谷高校生に「様々な課題を掘り起こして、素晴らしい提案をしてほしい」とのメッセージをいただきました。2学年の皆さんには、富谷高生の一人として、ぜひこのメッセージを念頭に置いて課題研究を進めてほしいと思います。



2 学年富谷市講演会②

富谷市講演会①に続いて、下記の富谷市の職員の方々による富谷市講演会②が10月17日・19日に行われました。市役所の企画部、総務部、市民生活部、保健福祉部、経済産業部、建設部、教育部の部長の方々から、7つの部がどのような施策に取り組んでいるのかをお話しいただきました。短い時間ではありましたが、行政として自治体を支えているの方々のお話を聴くことで、『富谷市総合計画』に基づいた、地域課題に対する市役所内組織の各部の取組について知見を深められました。

〈講師の方々〉

富谷市 企画部長 樫尾浩和さん
富谷市 総務部長 富澤 裕さん
富谷市 市民生活部長 須藤弥生さん
富谷市 保健福祉部長 狩野悦子さん
富谷市 経済産業部長 松原 誠さん
富谷市 建設部長 神田能成さん
富谷市 教育部長 相澤美和さん

《生徒の感想を一部紹介します》

・富谷市が取り組んでいることがよくわかった。多くが未来世代へ向けたものなので、私たちの世代に役立つようなことを考えて行きたいと感じた。また、地域創生のおもしろさや、やりがいなどもわかった。今後、富谷市で行われるイベントなどに積極的に参加していきたい。そして、収穫祭に向けて、より地域の活性化につながるようなアイデアを出せるようにアンテナを張って生活していきたい。

・私は富谷市民なので、富谷市のことはある程度知っているつもりでしたが、合併せずに、単独で村から町、町から市へと発展していき、それは全国的にもめずらしいことだと知ることができました。また、自治体評価ランキングで軒並み高評価を得ていることを知って、富谷市にあらためて誇りを持つことができました。講演では富谷市の過去のことや評価だけでなく、富谷市の現状、これからの課題や、これから富谷市のために行われることも知ることができ、とてもよかったです。



2学年研修ツアー

2学年において、8月24日に9月から始まる課題研究のテーマ設定に向けて、研修ツアーが行われました。研修ツアーでは、各クラスで地域の諸課題に取り組んでいる企業、行政、NPOなどを訪問し、その地域の現状と課題と、解決へ向けた取り組みについて学びました。訪問先は以下の通りです。

- 2年1組 千田清掃（施設見学・講話・ワークショップ）
→富谷市民俗ギャラリーとしんまち探訪（民俗ギャラリーで研修）
- 2年2組 秋保ヴィレッジ（施設見学・講話・ワークショップ）
→コープ富谷共同購入物流センター（見学・講話・ワークショップ）
- 2年3組 アクアイグニス仙台（施設見学・講話・ワークショップ）
→富谷市役所養蜂事業（市役所内で研修）
- 2年4組 ナカリ株式会社（工場見学・講話・ワークショップ）
→コープこども食堂→みやぎ生活協同組合で研修（講話・ワークショップ）
- 2年5組 コープこども食堂→みやぎ生活協同組合で研修（講話・ワークショップ）
→アクアイグニス仙台（施設見学・講話・ワークショップ）
- 2年6組 コープ富谷共同購入物流センター（見学・講話・ワークショップ）
→秋保ヴィレッジ（施設見学・講話・ワークショップ）
- 2年7組 富谷市民俗ギャラリーとしんまち探訪（民俗ギャラリーで研修）
→一般社団法人 ReRoots（施設見学・講話・ワークショップ）



2 学年 課題研究基本講演

9月14日に、2学年が課題研究を始めるにあたり、「研究」について理解を深めるため、高校生の普段の「学習」や「勉強」とは異なる次元にある「研究」とは何か、その意味や方法を知る講演会を開きました。宮城大学から、事業構想学群 教授 中田千彦さんを講師としてお招きしました。「地域についての課題研究」に必要な学問的素養を高めることができました。また、本校の卒業生である宮城大学4年(本校24回生) 亀谷 怜さんからは、高校時代の課題研究について、経験を踏まえたアドバイスをいただきました。

1 学年ESD講演会(理数分野)

1年生のT-timeの時間に、持続可能な社会を目指すための研究や活動について知見を深め、SDGs課題研究の基礎を築くことを目的として、以下の講師の方をお招きして9月28日に講演会を行いました。

〈講師の方々〉

有限会社山藤運輸農業活性化推進委員 太田 和慶さん

環境省東北地方環境事務所統括環境保全企画官 井上 直巳さん

環境省東北地方環境事務所国立公園課 相澤 あゆみさん(本校卒業生)

株式会社佐久専務取締役 佐藤 太一さん

南三陸自然環境活用センター 鈴木 将太さん



《生徒の感想を一部紹介します》

・持続可能な開発をしていくために、すべきことやできることを学びました。なかでも、ゴミを処理する際に、適切な方法で処理することの重要性を改めて学びました。今後は自分の考えを改め、学んだことを活かしつつ、ためになるような行動がとれたらと思います。

・持続可能な開発のために重要なことを学びました。特に現在の環境を未来に引き継ぐために、自分達がどのように判断をして行動をするのかが、大事になってくるというお話を聞きました。特にできるかできないか、ではなく「やるかやらないか」、これが重要になってくることを知り、すごく印象に残りました。講師の方の判断の軸についてや、この仕事に就いたきっかけについて聞き、自分もこのような考え方で今後の人生の選択をしていきたいなと思いました。



1学年SDGs課題学習 プレゼンテーション

1年生のT-timeでは、11月16日に課題学習におけるプレゼンテーションを行いました。発表の際は、各自が工夫を凝らしながら話しました。

SDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」をテーマに設定し、グループ毎に調査や解決に向けての考察をして、発表を行いました。“プレゼンをする”ということは、相手に伝えることが大切になります。聞きやすい発表とはどういうものなのか、他のグループの発表にも耳を傾け、参考にしていきたいでしょう。

これは3年生の「収穫祭」に向けてのいわゆる「播種(種まき)」です。今後の調べ学習やプレゼンテーションを通じて大切に育てていきましょう。



「届けよう服のチカラ」プロジェクト、ご協力ありがとうございました！

“届けよう服のチカラ”プロジェクトとは、ファーストリテイリングが UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とともに取り組む、小・中・高校生が対象の参加型の学習プログラムです。難民の子どもたちへの支援として、着なくなった子供服を回収し、届けていくことを通して、SDGs12「つかう責任・つくる責任」への貢献を目指すものです。本校はユネスコスクールとして、このプロジェクトに毎年参加しています。ユニクロ・GU さんのご協力のもと、本校のユネスコ委員が中心となって、子供服の回収を行いました。9・10月を通して皆さんにご協力をお願いしていましたが、今年度はダンボール7箱分の服を集めることができました。集まった服は、世界中の子どもたちの元へ届けられました。ご協力ありがとうございました！今後もよろしくお願いします。

